



神奈川県内における振り込め詐欺発生状況等について



平成30年12月版
神奈川県警察本部
生活安全総務課

1 振り込め詐欺認知状況

	平成30年11月末		前年同期比	
	件数	被害総額	件数	被害総額
振り込め詐欺	2,269	約50億 300万円	+170	-約2,600万円
オレオレ詐欺	1,670	約32億5,100万円	+261	+約2,300万円
警察官等をかたるキャッシュカード手交	989	約13億 500万円	+387	+約4億8,800万円
架空請求詐欺	267	約13億4,500万円	+33	+約1億9,100万円
融資保証金詐欺	18	約3,100万円	-4	-約4,100万円
還付金等詐欺	314	約3億7,600万円	-120	-約2億0,000万円

※ 被害額はキャッシュカード手交手口によるATMにおける払出（窃取）額を加えた実質的な被害額

2 情報掲示板

被害防止好事例

【事例1】

息子を装う犯人から、「書類を間違えて送ってしまった。損失が出てしまった。」などと電話があり、息子と信じた女性は、現金を用意し、自宅で息子からの連絡を待っていました。同様の前兆電話を認知した管轄警察署は、役場に注意喚起の防災行政無線放送を依頼し、役場が防災行政無線を流した結果、無線の内容を聞いた女性が電話の内容に不信感を抱き、実の息子に確認の連絡をして詐欺の電話であったことに気付くことができました。

【事例2】

息子を装う犯人から、お金が必要だと言われ信じた女性は、現金を用意し、犯人に指示された駅に向かいました。阻止者である駅員は、困っている様子の女性を見つけ声を掛けると、女性が「息子に会いに行く。お金を渡さないといけぬ。」などと話したことから詐欺を疑い、女性に詐欺の可能性であることを説明しましたが、その際、かかってきた電話に出た女性が行き先を指示され、向かおうとしたことから、駅事務室に連れて行き、警察に連絡をするなどして被害を防ぎました。

【事例3】

息子を装う犯人から、仕事で失敗してお金を用意して欲しいと頼まれた男性は、現金を用意するため金融機関に連絡し、保険の解約を依頼しました。対応した職員が解約理由を確認すると、男性は、これから息子とその上司がお金を取りに来ることや息子が仕事で失敗してお金が必要になったことなどを話したため、詐欺の疑いがあることを説明するも、「大丈夫です。」などと言って、女性が電話を切ってしまいました。詐欺被害を疑った職員は、すぐに男性宅に連絡しましたが、電話はつながらなかったため、警察に連絡して事情を説明し、通報を受けた警察が男性を発見し、被害を防ぐことができました。



これらの阻止事案は、日頃から、関係機関・団体の皆様が、日々、振り込め詐欺の被害から高齢者を守るという意識を常に持っていただき、数多くの被害防止をしていただいた一例になります。皆様のおかげで、今年は、11月末現在955件もの被害を防ぐことができました。

しかし、今年は、過去最悪の被害件数となった昨年を上回るペースで被害を認知しており、依然として多くの被害が発生している状況となります。引き続き、あらゆる機会を捉えた県民の皆様に対する注意喚起に御協力をお願いします。

1 こんな言葉を電話で聞いたらサギだ!

- 「急にお金が必要!用意して!」
- 「キャッシュカードを預かります。」
- 「ATMで医療費を還付します。」



2 留守番電話設定のお願い!

- 「犯人は留守番電話を嫌います。」
- 「常に留守番電話設定を!」
- 「留守番電話が作動する前に取らないで!」
- 「迷惑電話防止機能付き機器の購入検討を!」



